

国際金融センター

Q: 国際金融センターとはどのようなところですか

A: 国際金融センターとは、居住者と非居住者の資金取引、非居住者間の資金取引、居住者間の外貨建て資金取引などの国際金融取引が活発に行われている金融・資本市場、あるいは、その市場がある都市を意味します。世界の代表的な国際金融センターとして、ニューヨーク、ロンドン、東京などがあげられます。

Q: 現在の東京は国際金融センターとしての地位が低下しているようですか

A: 東京は、現在に至るまでニューヨーク、ロンドンとともに世界の3大国際金融センターの一角を占めています。しかし、1990年代初頭のバブル崩壊とその後のデフレ長期化による景気低迷の中で、世界の金融・資本市場に占める東京市場のシェアが低下したことは否めません。株式市場ひとつを取っても、世界の時価総額に占めるシェアは90年末の3割超から2006年末には1割を切るころまで低下し(図表)、東京市場に上場する外国企業の数も125から25へと減少しています。一方、地域の成長等を背景として、香港や上海などの市場は拡大を続けており、これらアジア13市場の時価総額の合計は、いまや東京を抜くまでとなっています(図表)。

Q: 東京市場にはどのような役割が期待されているのですか

A: 東京市場には、内外の市場参加者にとってより魅力的なものとなり、多様な金融商品・サービスの提供を通じた厚みのある市場となることが

期待されています。そのためには、一層の規制緩和を進め、投資家にとって有利で効率的な資金運用の機会が拡大するとともに、内外の企業や政府にとって円滑かつ機動的な資金調達が可能となることが重要です。当面は、わが国個人金融資産1,500兆円の運用とアジアにおいて必要とされる資金の調達が円滑に行われ、内外資金フローが拡大して、アジアの中心地的な国際金融センターとなることが期待されます。

Q: 政府はどのような方針で東京市場の国際的な地位向上に取り組もうとしているのですか

A: 首相の諮問機関である経済財政諮問会議が本年6月に公表した「経済財政改革の基本方針2007」(骨太の方針)では、わが国の成長力を強化するためにグローバル化改革を進めることとされ、金融・資本市場についても国際競争力を高めていくとの方向性が打ち出されました。これを受け、金融庁は2007年12月までに「金融・資本市場競争力強化プラン」(仮称)

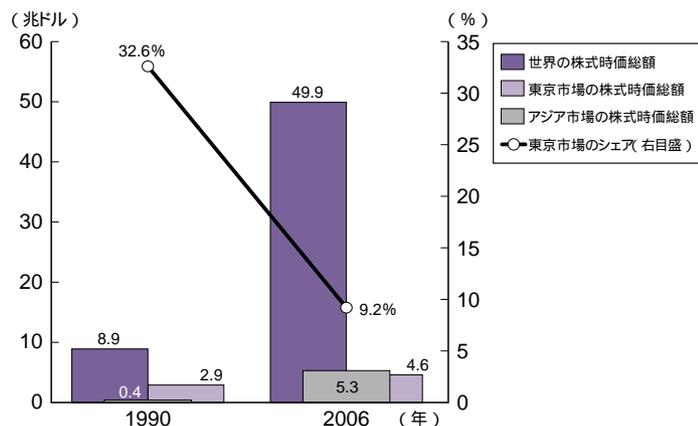
を策定することとされています。

Q: 「金融・資本市場競争力強化プラン」(仮称)の具体的な検討項目はどのようなものですか

A: 東京市場の国際競争力の強化に向けての重点施策として、株式、債券、金融先物、商品先物など幅広い品揃えを可能とする取引所の競争力強化、銀行と証券に係るファイアーウォール規制の見直し、課徴金制度の適用範囲拡大・金額引き上げなど準司法機能強化による市場監視体制の整備、規制監督の透明性・予見可能性の向上など競争力強化に向けた総合的な取り組み、の4点が掲げられています。実際に検討を進めるに当たっては、この他に会計や法務などのサービスやオフィス・交通・通信などのインフラの高度化も取り上げられると考えられます。□

みずほ総合研究所 金融調査部
 上席主任研究員 海野和之
 kazuyuki.umino@mizuho-ri.co.jp

世界の金融・資本市場に占める東京市場のシェア



(注) 東京は東証一部、二部、マザーズの合計。アジアは香港、上海、韓国、ボンベイ、NSE、台湾、シンガポール、マレーシア、シンセン、タイ、ジャカルタ、フィリピン、コロンボの合計。
 (資料) 経済財政諮問会議